

病気の 8 割は腸とミトコンドリアで治る

～どうしても治したい二人の医師が出した驚異の処方箋～

西原克成(医学博士・日本免疫治療研究会会長)

田中保郎(東洋医学・開業医)

(はじめに)

昔の名医は顔色だけで大体診断できた、顔色って、これ全部腸を中心とした内臓器官をつくっている細胞内のミトコンドリアの状態を表している(西原)

WHOもヨーロッパの文明国もかつての日本式に近い育児法に切り替えて以降、ほとんどアレルギーがなくなった。

逆に日本だけが米国でさえ見捨てたスポック博士の育児法をいまだに強行していてアトピー、喘息、中耳炎、肺炎、多動、下痢や便秘といった離乳食病に赤ちゃんが苦しんでいる。

人間の腸管の基底顆粒細胞の完成時期が 3 歳、それ迄に母親の心理状態が不安定だったり、食事が粗末だと基底顆粒細胞が未発達のままに出来上がり自閉症やうつ病の原因にもなる、引きこもりは今や 70 万人、すぐにでも日本の子育ての誤りを正さないと、日本は本当に滅びます(田中)

{ 治る病気をあえて直さない現代の日本医療 }

潰瘍性胃腸炎の患者に口呼吸を止めさせ食事療法だけで完全に治ったが大抵の医師はこうした生活指導をほとんどしないで検査・薬に頼っている。

潰瘍性大腸炎の若い女性に鼻呼吸をさせて体を温め、食べ物を正してよく噛みなさいと指導しただけで治った、この人は内科医にかかっていたが食事の指導は一切なかった、しかもお腹を下すようなものばかり食べていたので下痢を長引かせ、この病気を治そうとしていない呆れる程デタラメに医師にかかっていた。

* 元東大医学部小児科教授の「k」氏は赤ん坊に「おしゃぶり」を使わせないようにしたが鼻呼吸はウイルスや細菌を撃退できるが口呼吸は自動的に白血球内に取り込まれて細胞内感染を引き起こす、更に心臓もやられる。

* ミトコンドリア共鳴診断法は写真を撮って簡単かつ正確な診断ができる、余計な検査や治療を止めて診察費用もグーンと安くなる。

治らない医療のキャラクリを解明して「治る西洋医学」を復活させたいという考えから研究を重ね、環境エネルギーと生体力学エネルギーとミトコンドリアのエネルギー代謝を医学に導入することに成功した(西原)

現代医学がお手上げの癌・綜合失調症・登校拒否といった難治療例の多くは極微量の抗生物質で治せる、ところが治った時点で病院に行くと強引に手術を進める。

{ Oリングテスト }

従来代替医療の一種とされていたが現代的量子物理学を導入して脳神経のミトコンドリアの共鳴現象に基づく手法である事を明らかにしたものであり、「ミトコンドリア共鳴診断法」と呼んでいる、例えば干し柿を調べるために食べてもらい噛んでいて指の「O」の形が1・2で開いたら体に良くない、その場合干し柿と一緒に梅干を食べてもらうと1・2・3・4でも開かなくなりスーと解消する(西原)

{ パーキンソンもアルツハイマーも腸から起っていた }

腸の細菌が白血球に抱えられて血流に乗って脳血液関門のない所から脳に入り込んでいるだけ(西原)

腸診断で腸の状態を調べ、漢方薬を処方すると目を見張るような治療成果が出るようになった、それで全ての病気は腹に根ざすと確信した(田中)

日立がマイナス 20 度Cの氷ができる冷凍冷蔵庫が昭和 45 年頃に売り出し、それを境に潰瘍性大腸炎が劇的に増加、コップ1杯の4度Cの水を飲むと1日の基礎エネルギーの2400キロカロリー位が吹っ飛ぶ。

登校拒否は脳にバイ菌が入っているからで腸からバイ菌は来ており細胞の中の栄養を横取りされてミトコンドリアの働きが荒廃しているから。

脳はモニター、つまり真空管の機能を全て神経伝達物質で表現しており、その部分がやられていくら情報が入ってきてもキャッチできなくなってしまう(西原)

お腹を触ってみてここが痛い、うつ病とかこっちが痛い、登校拒否とか、痛い部分と症状が合致する(田中)

古代ギリシャの時代、憂鬱病は体の中で黒い胆汁が過剰になると、その時代の人々も精神科の病気が内臓に関係していると知っていた、内臓脳は内臓筋肉の為の脳で大脳辺縁系のこと、ここにバイ菌が沢山入ると神経細胞のミトコンドリアが変調し、うつ病はじめ過食症、拒食症、不眠症などを発症する。

アルツハイマーもボケも腸内に常在している無害の微生物・バイ菌やウイルスが原因、痴ほうは腸を冷やすと自動的にバイ菌がドット入りこみ、このバイ菌で脳の神経細胞内のミトコンドリアが働けなくなり荒廃して簡単に起こる。

パニック障害は原因不明とされているが心臓と肺の呼吸中枢の神経細胞内のバイ菌による感染によって起こっている(西原)

{ 財産争いも腸の「所有欲」が原因? }

脊椎動物には呼吸を行う脳と消化吸収を担う脳と

排泄・生殖・肛門の為の脳の3種類あり副交感神経が腸にあって脳から指令が来る、全ての腸管がその状態に応じて指令を出し、それぞれの脳を作動させている、つまり腸が脳を動かしている。

養老孟司さんの「唯脳論」でいけば財産争いはないはず、腹腸は吸収の腸だから所有欲でどんなに法律が決まっても「これは俺のものだ」となれば脳で分かっている争いが起こる、生きる志も腹腸にあるから戦国武将は自己実現に失敗した時に腹を切ってその情念を鎮めた。

{ 腸内細菌が細胞内に入ると問題が起こる }

腸内細菌はほとんど無害、但し血中から細胞の中に入ると有害、腸内細菌が細胞内に入るとミトコンドリアが動けなくなる、それが「免疫病」であり「難治性の疾患群」

{ 早急に子育ての誤りを正さないと日本は滅んでしまう }

離乳食を与える時期も含めて今の日本では子育てに「7つ」の誤りがある「乳児ポツリヌス菌症事件」の事を医学界では一切教えていない、1978年米国で蜂蜜にポツリヌス菌の芽胞が混入して赤ちゃんに生のまま与えた為に多くの死亡例が出た事件、この時母乳育児の子は便秘と発熱だけで済み大事に至らなかった、その後の研究の結果、乳幼児の腸は5歳までは種々の腸内の常在性のウイルスやバイ菌を吸収することが明らかとなり、以降米国では5歳迄は生の蜂蜜を禁じ、同時に昔の日本式に切り替え2歳位までは母乳で育てられるようになった、今の日本では生後半年位から離乳食を薦めているがアトピーをはじめとするアレルギーマーチになります。

無恥な日本の小児科医は「離乳食は栄養があつて脳が発達するからいい」と云っている、とんでもないことだ、離乳食を食べれば必ず病気になる(アトピー・喘息・中耳炎・肺炎・多動・下痢か便秘で赤ちゃんが苦しんでいる)赤ちゃんによって出るところが違うだけ、もとより小児科医にはこれらは治せません。

{ 副作用と好転反応の見分け方を知らないと損する }

バランスが崩れたのを治そうとするのが東洋医学、それが行き過ぎて反対にぶれたのが好転反応で気分が悪いが一旦飲むのを止めると3日後位から良くなる、ところが副作用はやめても良い状態は出てこない、全く変わらない場合は薬を変えればよい。

{ 粘膜が36、5度C以下になると、あらゆる病気になる }

雑穀類は体を冷やすので要注意(玄米・ヒエ・きび・大豆)毎年 10 月ごろ風邪、腰が痛くなる人に聞くと殆どの人が柿とか玄米を食べている、今の玄米と 30 年前迄の玄米はアブシジン酸の量が全く違う(脱穀法の違い)昔は 7 分づき米を玄米と呼んでいた、今の玄米はアブシジン酸が多く体を冷やしミトコンドリアにとって毒となる。 P 3

{ アトピー性皮膚炎は滅びに至る進化の際たるもの }

難病は絶滅に向かう進化の一里塚で日本では世界に先駆けて始まっている、アトピーは自己免疫疾患ではなく、白血球に細菌やウイルスが入ることで起きる、微生物の細胞内感染症で皮膚に出たものが一般的にアトピー性皮膚炎と呼んでいる。

{ ミトコンドリアの変異が癌の大元 }

癌は腸内微生物の多重複合汚染でミトコンドリアの働きの内で細胞分裂や細胞増殖リモデリングを行う機能を変調をきたした時に発症する、細胞機能の全てを担っているのがミトコンドリアで一人の個体のように制御して細胞分裂から何から何まで全部やっている、そこへ多重複合汚染で色んなウイルスが細胞の中に入ると細胞分裂と制御する部分がやられてしまう、そしてミトコンドリアが機能不能となって突然変異を起こして「細胞内感染症」を発症、これが癌の大元である。

* 一度治ったアトピー性皮膚炎が重度の冷中毒や睡眠時口呼吸や寝不足などで再発すると手に負えなくなる、脳や肺・副腎などの重要臓器に重度の細胞内感染症起こりそれが命に関わる。

* 糖尿病が世界一多い日本～何故なら口呼吸をする人が多いから

* リウマチや痛風は抗生剤で効果的に治せる

* 動物から感染するクラミジア感染症の風邪は重症化する(犬・猫・ウサギ・鳥・猿)

* イカ刺しは新鮮でもヘルペスウイルスが感染した保菌イカをうっかり食すると大変

* 喫煙者には抗生剤や向精神薬が利かない

* アトピーは 42 度C以上に温めてはダメ

* 赤ん坊にアイスクリームは絶対にダメ、乳幼児期に冷やして育てると小学校 3~4 年で登校拒否、これは腸内の常在菌のなせるワザ

* 制癌剤を使わない医者は病院に居られない

* ヒアルロン酸入りのサプリメントや健康食品を食べない事

{ 現代の癌療法は患者を脅すハルマゲドン療法だ }

今では国立がんセンターは誤診に次ぐ誤診だ、昔の東大の病理学者は「私が癌と云ったら癌なんだ！」と鶴の一声だった、それが今では全部の医者がそうなっている。厚生労働省はそれにお墨付きを出している。

{ 予防医療として申し上げたいこと }

1. 腸を冷やさない事 (冷たいものを取らない)
2. 骨休めする (よく寝る)
3. 口呼吸しない (鼻呼吸)

この三原則を国民運動として徹底させれば病気は激減して医療費も何十分の一に！